

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年1月27日～2018年2月2日の推移】

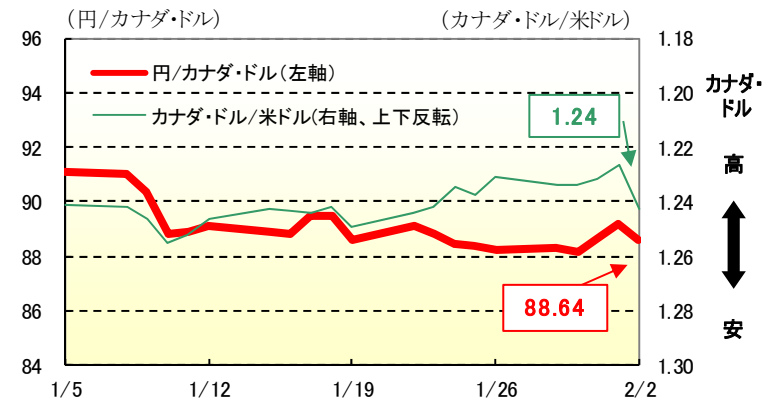
### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円やカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週、カナダでは月次GDP(国内総生産)が発表され、製造業が好調であったことなどを背景に前年比で年率+3.5%と市場予想を上回る結果となったことや、米国金利が上昇したことなどがカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。

また、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の第6回会合が閉幕しました。主要な争点では合意に至りませんでしたが、3カ国は協議を継続することで合意しました。

### 【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年1月5日～2018年2月2日)



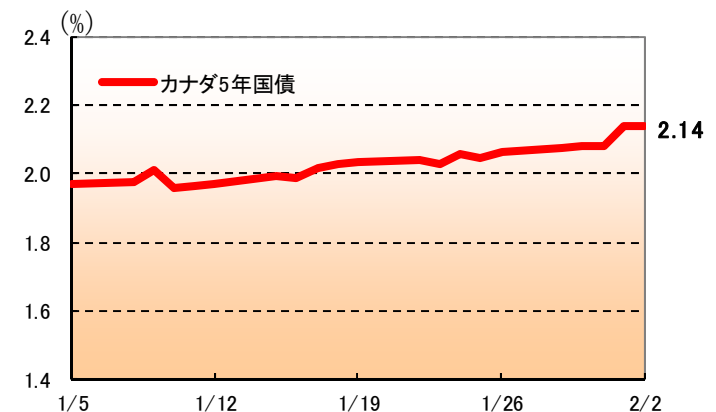
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは雇用統計が発表されます。前回好調だった雇用者数や失業率について、今回もそれを維持できるかが注目されます。カナダ経済の堅調さが確認される結果となれば、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になると考えられます。

また、足元で米国の金利が上昇基調となっていることが、その動きに連れやすいカナダの金利上昇圧力となっています。ただし、今週は8日に米国の暫定予算が失効することから、その協議の行方に注目が集まるとみており、1月のように政府機関の一部閉鎖が発生する場合には、金利低下圧力になると考えられます。

### 【カナダ 金利推移】 (2018年1月5日～2018年2月2日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>